



武四郎『新板蝦夷土産道中寿五六』の上がり
は、鶴の舞。



1950年(昭和25)第1回まりも祭り開催。全国に売却されたマリモの返還と、水力発電で水位低下し枯渇したマリモを湖に戻す、2つの返還の社会活動を祭りにこめた、アイヌと和人の初めての創作。



1976年、ユネスコパリ本部で「阿寒ユーカラ座」一行は、世界で初めてアイヌ文化を紹介。ユーカラ劇「アイヌラックル伝」は絶賛を受けた。前田光子は遠征を支援。

【環境と人権の道】



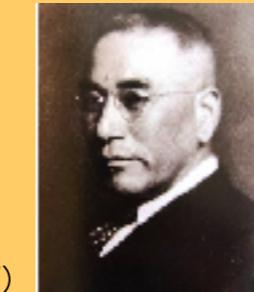
松浦武四郎
(1818-1888)
『近世蝦夷人物誌』
(出版当時発禁本)
アイヌの人物と生活環境を記した
もの。幕府により発禁となる。
武四郎死後、1944年に解禁。近
世ルポルタージュの最高峰との
評価も。

前田正名
(1850-1921)
～近代日本産業の祖～
前田一歩園創設者
木材産業の振興や道路造成と同
時に、阿寒湖畔に教育の基点で
ある学校を建てる。その志は今も
財團に引き継がれる。



富岡鉄斎
共通の友人
「最後の文人」といわれた國学者、画家。武四郎に蝦夷を紹介され、正名と晩年交流。

大久保利通
共通の協力者
薩摩藩出身の明治政府の要。武四郎を開拓判官に、正名の新政府での活動支援。姪は正名の妻イチ。



マリモ祭り創設
丹葉節郎 (1907-1994)
ユネスコ釧路支部創設
人権活動家。N・マンデラ解放、
アイヌ権利回復等に尽力。
武四郎、正名の顕彰碑建立。

マリモ愛護会

前田正次
(1886-1957)
～開発から環境保全へ～



阿寒湖アイヌコタン設立
前田光子 (1912-1983)
～タガジンヌから
阿寒の母 (ハボ) ～～



アイヌ古式舞踊
山本多助 (1904-1993)
アイヌラックル伝
「阿寒国立公園とアイヌの伝説」「怪鳥フリュー」など多くの著作でアイヌ文化を今に伝える。

阿寒湖ユーカラ座
パリ・ユネスコ公演

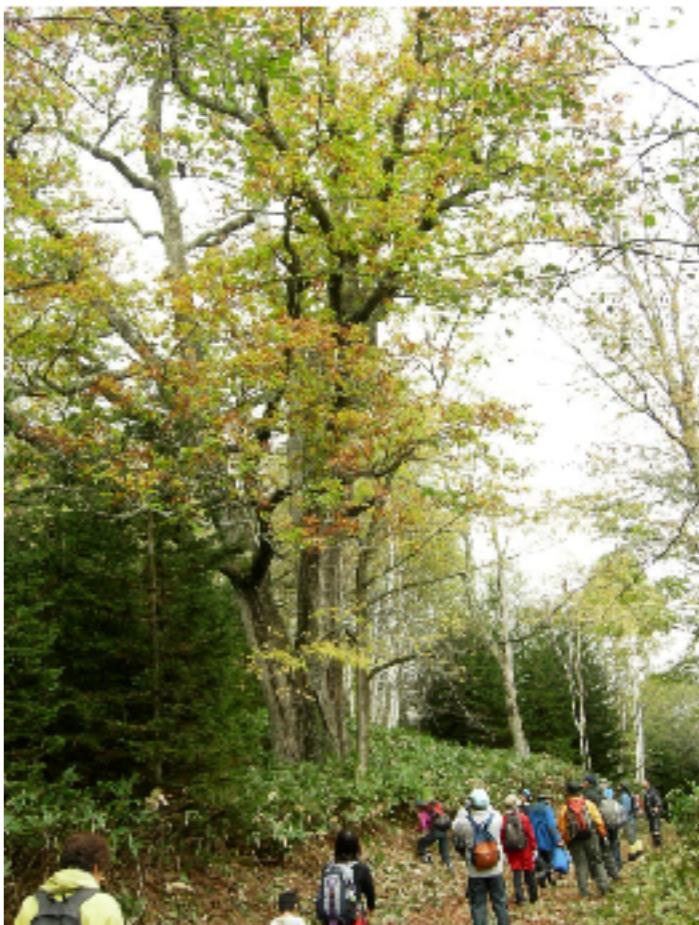
国連先住民人権宣言

ユネスコ世界無形文化遺産登録

**マリモ・ユネスコ世界自然遺産
(登録候補)**



前田三郎
(1992-)
～財団永続への道～
財団設立30周年



■つなぐ道、遺す道

自然との共生はアイヌの教えです。先人たちは、失敗と反省を活かして、持続可能な人と自然の共存の道をめざしました。

マリモ祭りは1950年(昭和25)、アイヌと和人が共同でマリモ保存を広めるために創作した祭りです。1976年(昭和51)には阿寒湖アイヌコタンユーカラ座一行が、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)パリ本部にて、世界で初めてアイヌ文化を発信します。

その源流には、アイヌの暮らしと文化を守りつづけた武四郎と、開拓とともに地域教育の礎をつくった正名の足跡があります。今、マリモのユネスコ世界自然遺産への道は、この地における、自然と人の共生の道を未来につなぐ道です。

■ A trail to connect, A trail to leave behind

Coexistence with nature is a teaching of the Ainu. They used their experiences of failure and reflection in order to find a way to live in harmony with nature. This belief in sustainability is seen in the efforts for the preservation of Marimo. The Marimo Festival was created in 1950 in a cooperative effort between Ainu and Wajin (Japanese) to expand understanding of Marimo preservation. In 1976, A group of Ainu performers, the Yakuraza, introduced Ainu culture to the world for the first time at the UNESCO (United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization) Paris headquarters in 1976. The legacies of two great men remain in this land. Takeshiro dedicated himself to the preservation of the way of life and culture of the Ainu, while Masana laid the groundwork for local cultivation and education. The path towards UNESCO World Natural Heritage status of the Marimo is the path that connects the nature of this land to future society and ensures its preservation.